

三二博物館報告

山田晋之介

御前崎市立図書館

9月22日から10月21日にかけて、御前崎市立図書館にて「御前崎の地質と自然」の展示を行いました。今回は、静岡県全体の地質の解説と鉱物標本の展示から始まり、続いて西部地方、特に御前崎周辺をクローズアップした地質の解説と化石・鉱物標本、そして、御前崎海岸で見ることのできる海藻類と貝類の標本、鳥類の写真を、生息場所の解説とともに展示しました。

茶畑が一面に広がる牧ノ原台地は、新第三紀の地層と第四紀の地層が形作っていて、第四紀の泥層や砂層からは、化石が豊富に産出することが知られています。相良層群と呼ばれる新第三紀の地層は、洗濯板のような御前崎海岸の岩礁地として露出し、遠州灘と駿河湾の境界にある御前崎では、非常に多くの磯の生物や野鳥を見ることができます。このことを経験的に御存知の方は多いと思いますが、実際に標本や写真



御前崎市立図書館「御前崎の地質と自然」

で示されると改めて驚かれるようで、御前崎海岸で見ることのできる生物の標本と写真は、来場された方々の興味をもっとも惹いていたと聞きました。今回の展示内容が、地元の方々の身近な自然への理解を深める一助となれば幸いです。

静岡科学館る・く・る

10月25日から11月27日にかけて、静岡科学館る・く・るにて「里山の自然」の第1回展示を行いました。全3回の企画で、第1回目は里山の風景写真と解説、及びそこに棲息する哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類の写真と標本を展示しました。

里山の風景写真は、今の日本では懐かしく感じられるものが多く、日本の原風景と称される里山が、人と自然とを繋ぐ役目を担っていたこと、そして現在その環境は失われつつあることを、展示内容から感じて頂けたと思います。里山の説明に続いて、哺乳類と鳥類の展示写真では、身近に見ることができる種から、町中では滅多に見ることのできない種まで網羅しました。それに対し爬虫類や両生類、水生動物の展示では、現在も見かける機会の多い種を主に取り上げました。

11月28日から始まった第2回目の展示では、里山に棲息する昆虫の写真と標本を展示しています。展示内容は、樹液に集まる昆虫、田んぼで見かける昆虫、チョウ、トンボ、その他の昆虫、のタイトルで写真と個別の解説を載せたパネル、及び里山で見られる代表的な昆虫類の標本です。これらの中には、今でも簡単に採集することのできる種もありますが、もう県内では見るのが難しい



静岡科学館る・く・る「里山の自然」

種もいくつか含まれています。

今回の展示を通して、かつては日本の日常風景であった「里山」と、そこに棲んでいた「ありふれた生き物」は、現在の日本で急速に失われつつあることを実感できます。その一方で、自然保護という動きも、近年は盛んになってきているのも事実です。ただ、ひとくちに自然保護といっても、人によって様々な見方や立場があります。人間の活動と自然の間にある最善の解を見いだすため、我々は今後も地道かつ継続的な調査によるデータを収集し、それに基づいた議論を重ねていく必要があります。